

2012.11.12

「小沢無罪は検察の罪だ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は11月12日、月曜日です。今日、小沢裁判の判決が出ました。予想通り、東京高裁は無罪・一審支持という判決を下しました。私はこの問題を国会で随分追及して参りました。小沢氏の政治資金団体・陸山会の会計報告が虚偽記載なのではないか、ということです。虚偽記載は一連の裁判で認められましたが、虚偽記載に小沢氏が関わっていたかどうかが判決の焦点になったのです。今回も前回と同様、小沢氏の関与を認めるだけの証拠が足りなかったということです。

ですが、小沢氏が嫌疑なし、無罪放免という訳にはいきません。小沢氏の政治資金団体の虚偽記載は認められています。小沢氏が無罪になったのは、検察が最初にした青写真の方向性が間違っていたからです。小沢氏が裏金を懐に入れたというストーリー等です。無理矢理捜査をしたために、その手法のまずさのために証拠として採用されるはずのものが採用されませんでした。まさに検察の捜査の出鱈目さが今回の無罪判決を導いた、と言ってよいと思います。小沢氏はともかく、事務所自体は有罪とされています。そこは謙虚に受け止めてもらわなければなりません。

しかし、新聞・マスコミは無罪だと騒ぎ立てています。週刊誌は無罪判決が出れば小沢氏の逆襲が始まると煽りたてています。まったく筋違いの話です。

このことについては一審の判決が無罪と出たときもビデオレターで申し上げましたので、再確認して頂きたいと思います。

さて、一方で野田政権の下で人権擁護法案の提出が閣議決定されました。人権擁護法が万一成立すればとんでもないことになるのではないか、という危機の声が多く届けられています。結論から先に言いますと、成立するはずがありません。一カ月しかない短い会期にもかかわらず、特例公債法案といった重要な法案も通っていません。衆議院では今日と明日審議を行い、木曜日に採決します。参議院でも特例公債法案を通すのもやぶさかではありません。しかし、参議院でも予算委員会を開かなければなりません。民主党は参議院で予算委員会を開くと、まためった切りされるのでとにかく審議拒否をしているのです。野党が問責を出しているから審議しないのではありません。民主党が所信表明や代表質問といった日程を入れ、予算委員会の審議を妨げるのです。解散を遅らせるための様々な手練手管を行っているのです。このような状況下で、人権擁護法案を参議院で通るはずがないのです。

にもかかわらず、なぜ民主党は人権擁護法案を提出するのでしょうか。民主党は支持団体に受ける政策、例えば永住外国人の地方参政権といったような政策をマニフェストで打ち出してきました。このままでは、近いうちに選挙を行うに当たり、支持団体から何もしなかったではないか、と非難されてしまいます。そこで、民主党としては法案を提出したが、野党自民党が反対をしたため

に採決できなかった、という口実を用意しようとしているのです。あくまでアリバイ作りですから、今国会で法案を通すつもりはないのです。

選挙後に自民党が政権を取れば、安倍総裁が総理になりますから、人権擁護法案は取り下げることになるでしょう。この法案については自民党政権下でも随分議論してきましたし、現在も自民党の法務部会で法務省の役人を呼んで議論しております。焦点になってきたのは、人権侵害の実態がどこにあるのかということなのです。例えば、刑務所内における刑務官の収容者に対する人権侵害です。また、検察の出鱈目な捜査により、冤罪が生まれています。これは一番の人権侵害です。つまり、人権侵害において矢面に立ち得るのは法務省なのです。人権擁護法案を通し、法務省に人権擁護局を作るというならば、その前に法務省自身が今までやってきたことを十分に反省すべきなのです。そのほかの人権侵害事案としては家庭内暴力、児童虐待があります。ですが、これらの問題については個別の法律で十分に対処してきています。つまり、人権擁護法を作る論理的裏付けが存在しないのです。むしろ、その組織を作ろうとしている法務省が自らの所轄する分野で人権侵害を行っていることが一番の問題なのです。今回の小沢裁判では、特捜部の思い込み、そして特権意識の思い上がった捜査手法により、最後の詰めが甘くなり、小沢氏は無罪になってしまいました。人権侵害以前に、法の番人としての彼らの姿勢が間違っているのです。法務省はこの特捜部の体質の改善について全力を挙げるべきなのです。ですか

ら、安倍内閣になりましてでも人権擁護法案が通ることはありえないと言ってよいと思います。

それにしても、出鱈目な法案を通そうとする野田内閣の体質には辟易とします。今日の衆議院審議で石破氏が質問していましたが、答弁に立つ野田総理を見ていて思うのは、我々は野田総理に対する攻め方を改めなくてはならないと思います。石破氏は理詰めで野田総理を責め立てていましたが、民主党はペテン師であり、嘘つき体質なのです。理屈で攻めても屁理屈で逃れられてしまうのです。何かといえば自民党のせいにし、自分達で責任を取ることをしない。全くの恥知らずなのですから、理屈で捕まえようとしてもドジョウのように、するすると指の隙間から逃げてしまうのです。

従って、参議院で予算委員会が開かれまして我々参議院自民党ではそのような追及の仕方はしません。必ず、包丁の上にドジョウを捕まえて、錐で頭を突き刺して、逃げられない状況を作り、しっかりと料理をしていく。このような論法で攻めなくてはならないと思っております。しかし、残念ながら参議院の予算委員会が立つという目途は立っていません。しかし、一日も早く解散総選挙に民主党を追い込んで、政治的詐欺、犯罪を白日の下にさらして、一日も早い政権奪回を目指して参りたいと思います。

本日も御覧頂きありがとうございました。